

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2022	開講キャンパス	都城	開設学科	園芸学専攻			
科目名称[英語名称]	果樹園芸学特別演習Ⅱ [Special seminar in Pomology Ⅱ]				授業形態	演習		
科目コード	611400	単位数	2	配当学年	2	実務経験教員担当	アクティブ ラーニング	○
教員氏名	前田隆昭							
授業概要	本演習では、果樹園芸学特論Ⅰ・Ⅱおよび果樹園芸学特別演習Ⅰなどで習得したことをもとに、受講生自らが修士論文課題についての目的・研究方法・進捗状況について論理的に発表し、受講生同志がお互いの理解を深めていく【知識・理解の育成】。							
関連する科目	果樹園芸学特論Ⅰ・Ⅱ、果樹園芸特別演習Ⅰを受講しておくことが望ましい。							
授業の進め方と方法	受講生が、修士論文をまとめる上で引用する文献などの内容を発表する。その際は、随時、ディスカッション等により学びを深めていく。本授業はディスカッション、プレゼンテーションを取り入れたアクティブラーニング形式で実施する【専門分野の知識・技能の育成】【コミュニケーション能力の育成】。							
授業計画	<p>第1回 ガイダンス(スケジュール、評価、概要説明) 授業の概要および進め方について説明する。</p> <p>第2回 受講生の修士論文課題に対する研究報告および進捗状況の発表・討議1 修士論文をまとめる上での引用文献について、その内容を受講生が発表し、ディスカッションする。</p> <p>第3回 受講生の修士論文課題に対する研究報告および進捗状況の発表・討議2 修士論文をまとめる上での引用文献について、その内容を受講生が発表し、ディスカッションする。</p> <p>第4回 受講生の修士論文課題に対する研究報告および進捗状況の発表・討議3 修士論文をまとめる上での引用文献について、その内容を受講生が発表し、ディスカッションする。</p> <p>第5回 受講生の修士論文課題に対する研究報告および進捗状況の発表・討議4 修士論文をまとめる上での引用文献について、その内容を受講生が発表し、ディスカッションする。</p> <p>第6回 受講生の修士論文課題に対する研究報告および進捗状況の発表・討議5 修士論文をまとめる上での引用文献について、その内容を受講生が発表し、ディスカッションする。</p> <p>第7回 受講生の修士論文課題に対する研究報告および進捗状況の発表・討議6 修士論文をまとめる上での引用文献について、その内容を受講生が発表し、ディスカッションする。</p> <p>第8回 受講生の修士論文課題に対する研究報告および進捗状況の発表・討議7 修士論文をまとめる上での引用文献について、その内容を受講生が発表し、ディスカッションする。</p> <p>第9回 受講生の修士論文課題に対する研究報告および進捗状況の発表・討議8 修士論文をまとめる上での引用文献について、その内容を受講生が発表し、ディスカッションする。</p> <p>第10回 受講生の修士論文課題に対する研究報告および進捗状況の発表・討議9 修士論文をまとめる上での引用文献について、その内容を受講生が発表し、ディスカッションする。</p> <p>第11回 受講生の修士論文課題に対する研究報告および進捗状況の発表・討議10 修士論文をまとめる上での引用文献について、その内容を受講生が発表し、ディスカッションする。</p> <p>第12回 受講生の修士論文課題に対する研究報告および進捗状況の発表・討議11 修士論文をまとめる上での引用文献について、その内容を受講生が発表し、ディスカッションする。</p> <p>第13回 受講生の修士論文課題に対する研究報告および進捗状況の発表・討議12 修士論文をまとめる上での引用文献について、その内容を受講生が発表し、ディスカッションする。</p> <p>第14回 受講生の修士論文課題に対する研究報告および進捗状況の発表・討議13 修士論文をまとめる上での引用文献について、その内容を受講生が発表し、ディスカッションする。</p> <p>第15回 受講生の修士論文課題に対する研究報告および進捗状況の発表・討議14 修士論文をまとめる上での引用文献について、その内容を受講生が発表し、ディスカッションする。</p>							

学位授与の方針(DP)との 関連	1. 専門分野に関する知識・技能と教養	○
	2. 人間力、社会力、国際性の涵養	
授業の到達目標	果樹栽培に関する研究について理解するとともに、関連する研究手法について精通することを目標とする【専門分野の知識・理解の育成】。	
授業時間外の学修	次回、講義で使用する文献を配布するので、事前に予習するとともに、講義後もきちんと復習しておくこと(約1時間)	
課題に対するフィードバック	毎回、発表についての指導を行う。	
評価方法・基準	受講態度(50%)、課題提出(50%)	
テキスト	特になし	
参考書	随時、文献を配布する。	
備考		